



本社・研究所

〒577-0012 大阪府東大阪市長田東3-2-27
TEL 06-6748-8880 FAX 06-6748-8887

地下鉄をご利用の場合

地下鉄『新大阪』駅 地下鉄御堂筋線『本町』駅

地下鉄中央線『長田』駅(新大阪駅より約30分)

番出口より徒歩約5分

お車をご利用の場合

阪神高速東大阪線長田出口より約600m

近畿自動車道東大阪北ICより約1.8km

近畿自動車道東大阪南ICより約3.8km



Research & Development



確かな明日へ

株式会社 構造総合技術研究所

構造物の調査・診断

構造物の耐久性調査

橋梁定期点検

既存構造物の耐震診断

学校建物の耐力度測定

土木構造物の補修・補強設計

非破壊検査

委託実験研究



<http://www.kosoken.co.jp/>

未来を見すえて

SDGs「17の持続可能な開発目標」は
全ての人々が豊かな生活を継続するための目標です。

豊かな生活に欠かせない道路やダム、建築物等の
社会インフラの材料はコンクリートや鉄であり、
その生産過程において大量のCO₂が排出されるため、
社会インフラをできるだけ長く利用することが重要です。

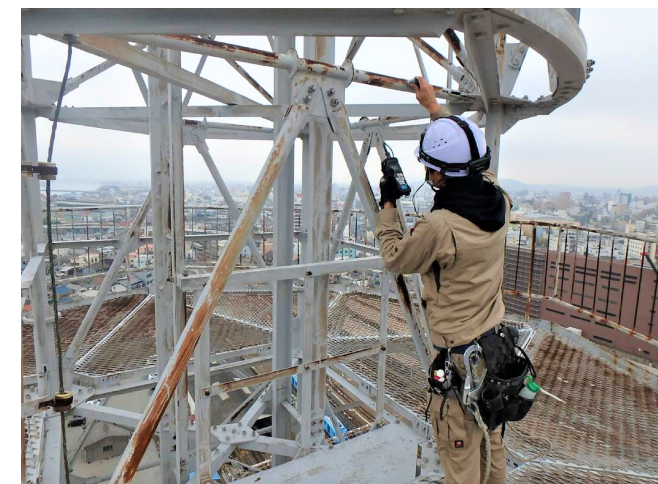
当社は社会インフラの維持・保全のため、
調査や補修設計を通じて社会に貢献します。

同時に、SDGsの努力目標である
「11.住み続けられるまちづくりを」
「12.つくる責任、つかう責任」
「13.気候変動に具体的な対策を」
に対しても貢献していきます。

構造物調査・補修設計

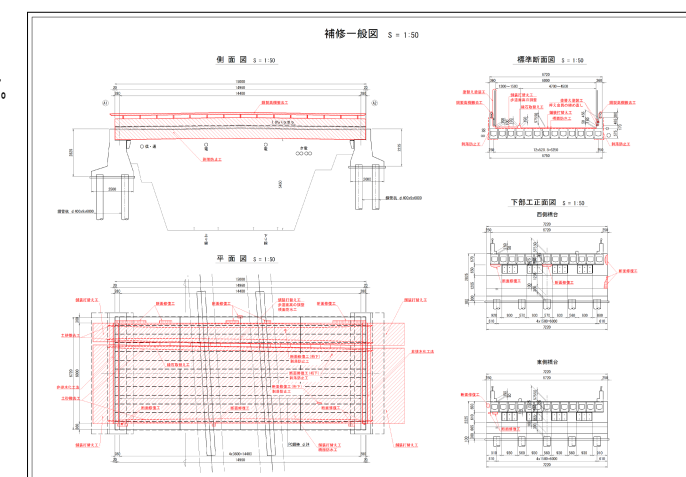
構造物の調査・診断

構造物の維持保全は、
人体の健康診断や病気の治療に例えられます。
劣化の進行程度は
材料や施行、環境等の条件によって構造物ごとに異なり、
顕在化した段階で補修・補強を始めるのでは
手遅れということもあります。
したがって、事後保全ではなく
予防保全的な対応が必要です。



土木構造物の補修設計

適切な補修・補強工事を行うためには、
正確な調査・診断結果に基づいた補修設計が必要です。
当研究所では調査・診断・補修設計をワンストップで行います。
これによってムダのないデータ連携が可能となる他、
お客様の意向に調査段階から対応いたします。



調査・診断方法

配筋探査

電磁波レーダや電磁誘導システムを用いて、
コンクリート内部の配筋状況を探査します。
鉄筋間隔はもちろん、
かぶり厚さやシース位置の測定も可能です。



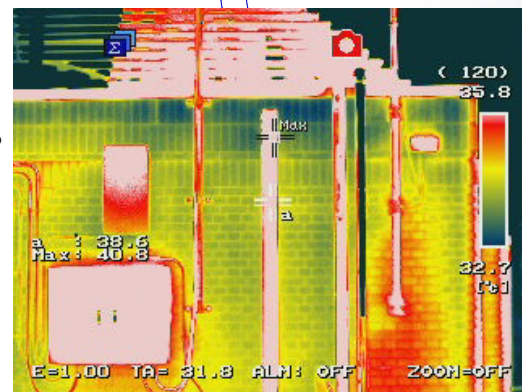
寸法調査

スケールやレーザーメーターを用いて
部材寸法を計測します。
鋼材の場合は、
超音波を用いた計測も行います。
超音波による計測では、
溶接欠陥の有無および
腐食による断面減少も調査可能です。



赤外線サーモグラフィ試験

赤外線サーモグラフィを用いて、
温度変化の差異から
構造物表面付近のコンクリートの空洞や
タイル等のうきを
可視化することができます。



コンクリート厚さ・ひびわれ調査

弾性波レーダーシステムや
コンクリート用超音波探査機を用いて、
コンクリートの部材厚さやひびわれ深さを測定できます。
また、内部欠陥やグラウトの充填不良の確認も可能です。



小径コアによるコンクリート強度試験

20 ~ 25mmの小径コアでも、
換算式による補正で、
従来の 100mmのコアによる方法と同等の精度で
圧縮強度を推定できます。
小径コアによる試験は「ソフトコアリング」および
「ソフトコアリングC+」として各種審査証明を得ています。

X線によるコンクリート内部探査



コンクリート内部の鉄筋や埋設管、
PC桁のシース位置をX線による撮影で、
目視確認できます。
対象部材を挟んでX線源(装置)と
フィルムを配置。
コンクリート内部に鉄筋や空洞等のような
比重の異なるものが存在すると、
X線透過率の差異で可視化されます。

騒音・振動測定

製造機器や工事現場、
車両の通行に伴う振動等を測定します。
加速度センサーで連続測定したデータを、
振幅や周波数について解析します。



当研究所では
破壊・非破壊試験双方における
従来の調査方法に加えて、
数々の新技術を開発しています。

この他、
より精度の高い調査・診断を行える体制を確立させるなど、
数々の実績を積んでおります。
当研究所はクライアントの要請に的確にお応えしながら、
常に新たな技術開発に取り組んでいます。

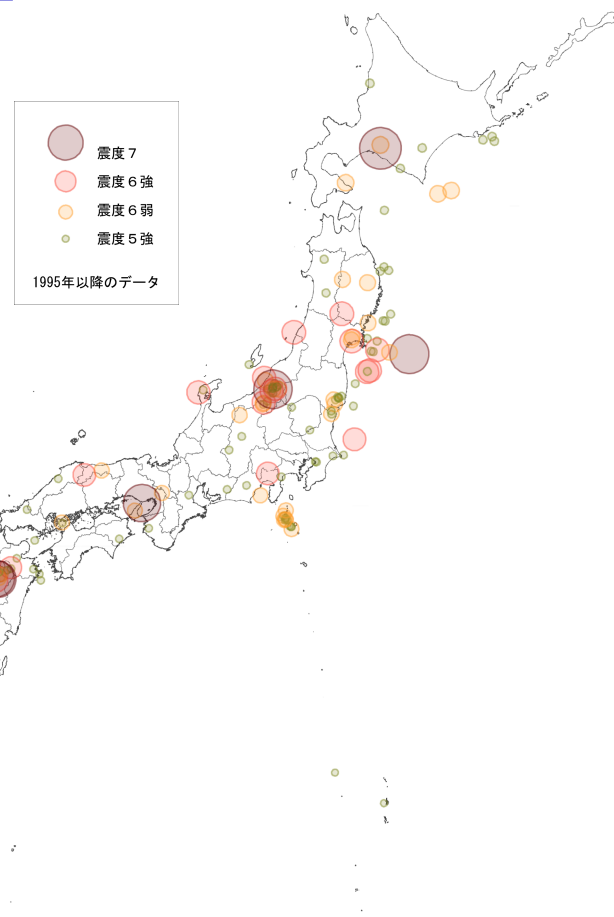
既存コンクリートの基本性能試験
(強度試験、中性化試験、アルカリ骨材反応試験、塩分濃度試験等)
アスベストの調査・分析
塗膜の有害物調査
床スラブの載荷試験
既設橋梁の耐力力調査及び応力頻度測定
ドローンによる構造物ひびわれ調査
電磁波レーダ法による地中内部調査

耐震診断・耐力度調査

1995年1月17日に発生した兵庫県南部地震以降、日本は地震活動期に入ったと言われています。
右の図は1995年以降に発生した震度5以上の震度と震源地をまとめたものです。

2018年までの23年間で震度7の地震が6度も発生しており、地震調査委員会が発表したM7.0～7.5クラス大規模地震の30年以内発生確率は全国的に非常に高い数値となっています。

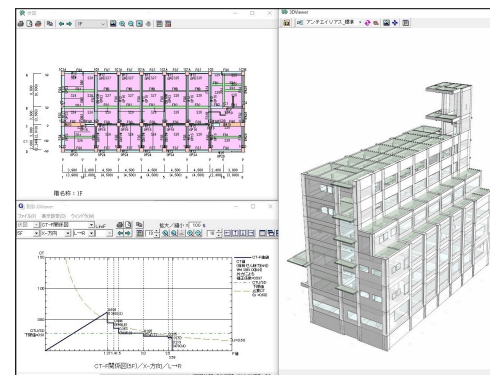
さらに、最大瞬間風速58.1mを観測した2018年の台風21号の様に、地球規模の気候変動による災害もますます甚大となっています。



既存建造物の耐震診断

1981年6月1日に施行された建築基準法に基づく現行の耐震基準、いわゆる「新耐震」以前の住宅ストックは全国にまだ相当数残されています。
当研究所では、このような古い耐震基準で建築された建物の耐震診断を行っています。

当社では建築設計を行いません。



学校建物の耐力度測定

耐力度調査は学校建物の老朽化を総合的に評価するもので、公立学校施設における建物の構造耐力、経年による耐力・機能の低下、立地条件による影響の3点の項目を総合的に調査し、耐力度点数を算出します。



会社概要

会社名 株式会社 構造総合技術研究所
代表取締役 大久保 員良
設立年月日 昭和61年1月21日
資本金 3,000万円
本社・研究所 〒577-0012 大阪府東大阪市長田東3-2-27
TEL 06-6748-8880
FAX 06-6748-8887
登録許可 一級建築士事務所
加盟団体 (一社)大阪府建築士事務所協会
(一社)関西建築構造設計事務所協会
(一社)日本建築構造技術者協会
(一財)日本建築防災協会
(公社)日本コンクリート工学会
(一社)日本非破壊検査協会
(一社)ITECS技術協会
(一社)日本コンクリート診断士会
京滋コンクリート診断士会
E-mail rd.osaka@kosoken.co.jp
URL http://www.kosoken.co.jp

沿革

昭和61年	1月	設立
平成2年	3月	一級建築士事務所登録
平成13年	4月	ソフトコアリング協会加盟 技術者資格取得
平成16年	6月	ITECS技術協会加盟 技術者資格取得
平成18年	4月	道路橋点検士技術研修会 修了者資格取得
平成21年	4月	コンクリート強度測定技術者 資格取得
平成24年	10月 3月	配筋探査技術者資格取得 日本赤外線サーモグラフィ協会 マスターコース(レベル1) 技術者資格取得
	10月	赤外線サーモグラフィ試験 技術者資格取得
平成27年	10月	道路橋点検士技術研修会 修了者資格取得
平成28年	4月	ITECS技術協会 専門技術者資格(レベル)取得
令和元年	5月	ERIグループ加盟

